

令和4年12月19日

別府市教育委員会  
教育長 寺岡 悌二 殿

別府市学校給食運営委員会  
委員長 高松 伸枝



答 申 書

本運営委員会は、令和4年8月26日付け別教委政第870号により諮問のあった別府市立学校における食育推進計画の策定について審議を行った結果、別紙のとおり答申します。

記

審議の経過	令和4年8月26日	諮問・諮問内容に対する事務局説明 事務局説明に対する質疑応答 諮問内容に対する審議・意見集約
	令和4年10月5日	諮問内容に対する審議・意見集約

(別紙)

## 別府市立学校における食育推進計画の基本方針に求める事項

子どもたちが豊かな人間性をはぐくみ、生きる力を身に付けていくためには、何よりも「食」が重要です。

子どもたちが食に関する様々な体験を重ねることで、食への知識・関心を高め、心豊かな人に成長することを目標に、学校教育活動全体を通じた食育推進を図る必要があります。

つきましては、食に関わる資質及び能力を育成する施策として、下記の事項を踏まえ、別府市らしい基本方針を掲げた「別府市立学校における食育推進計画」を策定していただくことを求めます。

### 1 食を通じて豊かな心を育む

食に関わる人や自然への感謝の気持ちを育み、食に関する活動において互いが協力する重要性を学ぶことで、豊かな社会生活を営む基盤を作り、食を楽しむことができる感性豊かな子どもの成長を導く食育を実施すること。また、ICTを活用して、生産者や給食センターなどが学校と「繋がる食育」を実施することで、新たな学びの場を作り、「思いが伝わる食育」を目指すこと。

### 2 心身の健康を保持・増進できる力を身に付ける

子どもたちが、自分の成長や健康を保持・増進するために必要な栄養だけではなく、食物アレルギーなど、食の安全性についても正しい知識を身に付け、自ら食品を選択することができるように導くこと。また、肥満や痩身、むし歯などの健康問題については、家庭と連携し、指導も含めた食育を実施すること。

### 3 給食から学習する「日本一おいしい給食」

学校給食により、四季折々の変化や色彩、匂などを感じられるように工夫するとともに、給食時間の食育を充実させ、大分県産や別府市産の身近な食材を積極的に活用し、子どもたちが「日本一おいしい給食」と自慢できるよう、食に関する指導を行うとともに、給食環境を整えること。

### 4 社会情勢に応じた食育の実施

食料の自給やフードロスなど、食に関する問題に対して、自ら解決に向けた取り組みができる子どもを育むために、社会的な観点で食を考えることができる学習を実施すること。

## 5 別府市の特色を生かしたふるさと学習と食育の連携

国際色豊かな別府市の特色を活かし、世界の食に関して学ぶ機会を設けること。  
また、「別府学」に食育を取り入れ、子どもたちの郷土愛を育むとともに、他の地域の文化についても大切にできるよう導くこと。

## 6 家庭や地域と繋がる食育

給食センターを学校と家庭が食を通じて繋がる場として活用し、給食センターが実施する見学会や試食会等を通して、地域に開かれた食育を実施すること。また、栄養教諭等が実施する食に関する相談会などにより、学校と家庭が食の悩みを共有し、改善できるように努めること。

## 7 各学校での食育の体制の充実

カリキュラム・マネジメントにより、各教科等や学校生活との連携を図り、子どもだけではなく教職員も共に学べる食育活動を通して、食育の質の向上に努めること。

また、給食センターや栄養教諭と連携しながら、持続可能な食に関する指導を実施すること。

## 8 栄養教諭による食育の支援と実施

栄養教諭は、それぞれが担当する学校との連携を密にすることで、いずれの学校においても充実した食育が実施されるよう、教職員が行う食育の支援を行うこと。そのために、各学校において栄養教諭の指導体制を構築すること。

また、専門的な知識を生かし、「わくわくする食育」を実施するとともに、各校において食育が推進されるような環境を整えること。

本運営委員会では、活力ある社会を実現するために、自ら考え、実践することができる子どもたちを育むための食育を組織的に実施できるよう、教育委員会の支援体制を構築し、各学校の食育が推進されることを望みます。